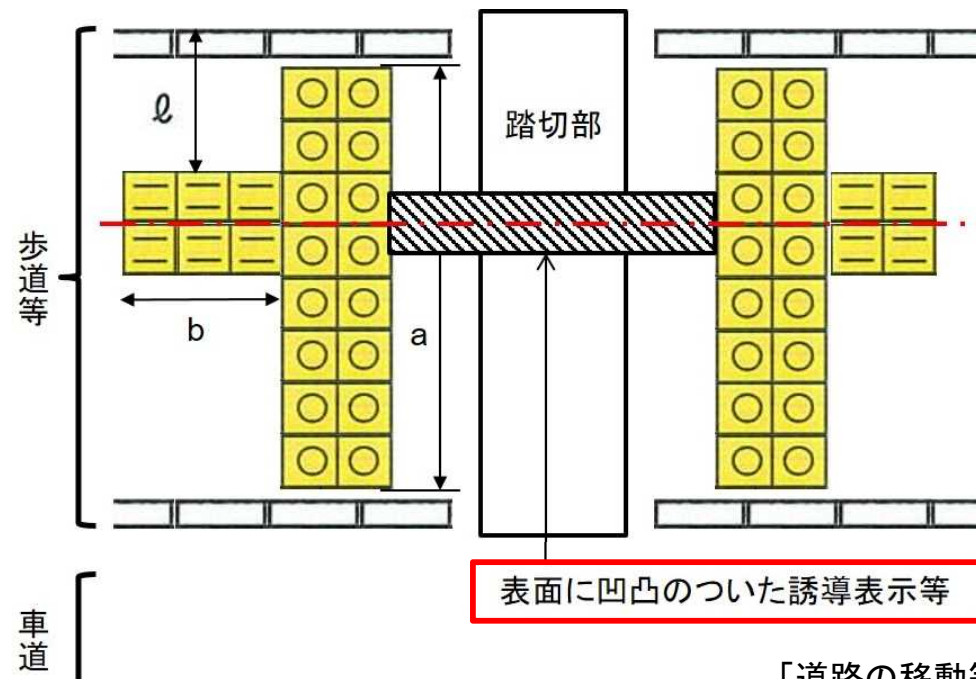


踏切道における視覚障害者誘導対策に求められる機能と 今後の検討の進め方

● 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会(令和4年12月2日)での主なご意見
(踏切道における視覚障害者誘導対策に関するもの)

- 屋内環境で実施した体験会の結果を基に、全国的なルールを定めることは拙速
- 実証的な検証を行ったうえで、誘導対策の在り方を丁寧に議論すべき
- 視覚障害者にも様々な特性(歩行訓練の有無、盲導犬利用)があるため、様々な特性の方に参加していただいて決めるべき
- 踏切事故の原因分析に基づき、対策を検討すべき
- 誘導表示だけでなく、路面内の路面の材質と合わせた検討が必要

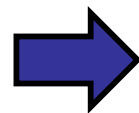


大和郡山踏切事故概要



事故発生までの動き

- ①西側から踏切内に立ち入り
- ②警報機が作動し、その場(踏切内)に立ち止まる
- ③進行してきた側に引き返す



- 踏切の存在を認識できていなかった
- 踏切の中にいることを認識できていなかった
- 閉じ込められた場合の対処方法がわからなかった

踏切事故防止のために求められる機能等

踏切事故防止に向けた課題

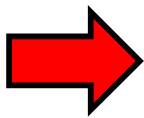
- ①踏切の存在を認識できない
- ②踏切の中にいることを認識できない
- ③線路側・車道側に逸脱する
- ④閉じ込められた場合の対処方法が分からない

踏切事故対策に求められる機能

- ①踏切が存在することを認識できる (認識性)
- ②踏切の中にいることを識別できる(歩道と誤認しない) (識別性)
- ③線路・車道に逸脱せずに踏切を通行できる (直進性)
- ④踏切道内に取り残された場合に正しく対処できる (対処性)

求められる対策(案)

- ①、②、③ → { 歩道と踏切の境界部の構造(誘導ブロックの設置方法)の検討
踏切道内の誘導表示の構造、路面の材質の検討
- ④ → 踏切道内に取り残された場合の対応方法の周知 等

- 
- ①、②、③について、これまで整備された事例等を基に、歩道と踏切の境界部の構造や、踏切道内の誘導表示の構造等の対策候補案を複数作成し、評価実験を実施
 - 「道路の移動等円滑化に関するガイドライン」等へ反映

令和4年 12月

道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
・今後の検討の進め方、WGの設置

令和5年 2月
～
6月

直轄国道の踏切道における視覚障害者誘導対策の実施

踏切道等における視覚障害者誘導対策WG
・直轄国道での設置状況、当事者意見、今後の進め方

7月

踏切道等における視覚障害者誘導対策WG
・評価実験の概要案

8月

評価実験を実施
(民間施設の活用も検討)

9月

10月

踏切道等における視覚障害者誘導対策WG
・実験結果報告、ガイドライン改定案

道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
・ガイドライン改定案

11月

パブリックコメント

ガイドライン改定